

保健室で養護教諭に求められている技術に関する文献検討

岩佐 美香, 川崎 裕美

広島大学医歯薬保健学研究科 地域・学校看護開発学

(30年6月28日受付)

要旨：【目的】本研究では、保健室で養護教諭に求められる役割や技術の課題を明らかにすることを目的とした。養護教諭が保健室で行う役割について研究がなされた先行文献のうち、「養護教諭」、「保健室」に「処置」の観点も加えた過去5年間の文献を収集して分析し、文献数の推移と抽出された文献の研究内容を解析することによって、保健室で養護教諭に求められている「処置」を含めた技術と他の業務との関係を整理した。

【対象】国内発行の医学・看護学及びその関連領域の雑誌論文を収録している医学文献データベース「医学中央雑誌」および、国立情報学研究所学協会発行の学術雑誌と大学等で発行された研究紀要を検索する「CiNii」を検索媒体として使用し、文献は全ての検索で原著論文、研究報告、解説、学会抄録も採用した。期間は2012年から2016年までの5年間とした。

【方法】第一段階のキーワードである「保健室」「養護教諭」で検索した文献を研究の表題について「保健管理」、「保健教育」、「保健室経営」、「保健組織活動」、「専門職として」の5つのグループに分類し、第二段階として、「処置」のキーワードを加えて検索した文献を、掲載年順に番号付けし、著者、掲載誌、論文の種類、頁、掲載年、研究方法、研究対象、概要、主な研究内容を分析した。

【結果】養護教諭が保健室で行う役割文献から「処置」「診断技術」「役割・職務意識」「機関連携」「保健室経営」の5つの下位概念を導出した。

【結論】救急処置は養護教諭が苦手とする技術とみなされており、全身状態の観察と高いアセスメント能力が必要とされる。創傷処置の範囲は幅広いため、短時間で観察してアセスメントして判断する能力が必要とされ、様子観察から救急搬送までの判断技術も求められることが明らかとなった。これらの能力や技術を獲得して実務に活用するためには、養護教諭の経験が必要である。さらに、児童生徒が保健室へ訪室してきた際に全体アセスメントとフォーカスアセスメントが必要であることが明らかになった。これらの技術を効果的に獲得するためには現職養護教諭の研修等や、養護教諭養成課程での学生育成プログラムへの追加が効果的と考えられる。

(日職災医誌, 67:152—158, 2019)

—キーワード—

保健室, 養護教諭, 処置

1. はじめに

近年、社会環境や生活環境の急激な変化は子どもの心身の健康に大きな影響を与えている。具体的には、ストレスによる心身の不調などメンタルヘルスに関する問題や新型インフルエンザ、麻疹などの感染症、ぜん息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患、さらには、自然災害や事件・事故の発生に伴う心のケアなどの健康問題が生じている¹⁾。また、医療の進歩に伴い、長期にわたり継続的な医療を受けながら学校生活を送る

子どもの数も増加しており、児童生徒への個別対応の重要度は増している。

養護教諭の職務は学校教育法第28条で「児童生徒の養護をつかさどる」²⁾と定められており、学校内で養護と学校保健全般を担当する。保健室での救急処置や健康診断、疾病予防、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、組織活動など多岐にわたり、上述した現代の健康課題の解決に向けて重要な責務を担う。

本研究では、「養護教諭」「保健室」に関する文献調査を行い、現状を具体的に把握するとともに、保健室での事

表1 処置のキーワードが含まれる文献数の推移

掲載年	保健管理	保健教育	保健室経営	保健組織活動	専門職として	計
2012	2	0	0	0	1	3
2013	1	1	1	0	1	4
2014	2	0	0	0	2	4
2015	0	0	1	0	2	3
2016	2	0	0	1	0	3
合計	7	1	2	1	6	17
比率 [%]	0.4	0.1	0.1	0.1	0.4	1.0

象の多様化に対応するための「処置」の観点も新たに加えた文献を検索した。これを基に保健室で行われる「処置」と、「診断技術」「役割・職務意識」「機関連携」「保健室経営」業務との関連を明らかにする。

2. 研究目的

本研究では、保健室で養護教諭に求められる役割や技術の課題を明らかにすることを目的とした。養護教諭が保健室で行う役割について研究がなされた先行文献のうち、「養護教諭」「保健室」に「処置」の観点も加えた過去5年間の文献を収集して分析し、文献数の推移と抽出された文献の研究内容を解析することによって、保健室で養護教諭に求められている「処置」を含めた技術と他の業務との関係を整理した。

3. 研究方法

データの収集方法

文献検索は、国内発行の医学・看護学およびその関連領域の雑誌論文を収録している医学文献データベース「医学中央雑誌」および、国立情報学研究所学協会発行の学術雑誌と大学等で発行された研究紀要の両方を検索する「CiNii (国立情報研究所論文情報ナビゲーター)」を検索媒体として使用し、文献は全ての検索で原著論文、研究報告、解説、学会抄録も採用した。期間は2012年から2016年までの5年間とした。

第一段階として「養護教諭」「保健室」、第二段階として「養護教諭」「保健室」「処置」のキーワードで検索した。

分析方法

第一段階のキーワードである「養護教諭」「保健室」で検索した文献の表題を「保健管理」「保健教育」「保健室経営」「保健組織活動」「専門職として」の5つのグループに分類し、次に掲載数の年次推移と内容に沿って分析した。

第二段階として、「処置」のキーワードを加えて検索した文献を掲載年順に番号付けし、著者、掲載誌、論文の種類、頁、掲載年、研究方法、研究対象、研究概要、主な研究内容を分析した。ここで、重複文献や抄録、会議録、著者の経験を述べたもの、調査対象が明確でないもの、実態や現在の状況に関する記載だけのものは除外し、最終的に17件の研究内容をそれぞれ要約した。抽出

したキーワードを基にワークシートを作成し、内容を解析した。

4. 研究結果

1) 「養護教諭」「保健室」、に関する文献数の推移

「養護教諭」「保健室」のキーワードを含む文献数は、2012～2016年の5年間で「医学中央雑誌」124件、「CiNii」141件の計265件で、重複を除外すると233件であった。掲載年別文献数は2012年41件、2013年63件、2014年51件、2015年41件、2016年37件であり、最多掲載年は2013年、次いで2014年であった。

文献に記載された職務内容を5つのグループ：「保健管理」「保健教育」「保健室経営」「保健組織活動」「専門職として」に分類した。抽出された文献233件のうち、「保健管理」は94件(全体の40.3%)、「保健教育」は56件(24.0%)、「保健室経営」は28件(12.0%)、「保健組織活動」は26件(11.2%)、「専門職として」は29件(12.4%)であり、「保健管理」に分類される文献が最も多く(表1)、また、年次では2013年が最多であった(図1)。

2) 「養護教諭」「保健室」「処置」に関する文献数の推移

「養護教諭」と「保健室」のキーワードに「処置」を加えて文献検索した結果、2012年から2016年までの5年間で「医学中央雑誌」13件、「CiNii」11件の計24件が該当し、重複1件を除外すると合計23件が抽出された。文献年次は2012年3件、2013年5件、2014年3件、2015年5件、2016年7件であった。

次に、「保健室」「養護教諭」「処置」に関する23件の文献に対して表題や著者、掲載誌、論文の種類、頁、掲載年、研究方法、研究対象、研究概要について精査し、重複文献や抄録や会議録、著者の経験を述べたもの、調査対象が明確でないもの、実態や現在の状況についての記載のみであったものを除外すると17件が抽出された。その内訳は「保健管理」7件(41.2%)、「保健教育」1件(5.9%)、「保健室経営」2件(11.8%)、「保健組織活動」1件(5.9%)、「専門職として」6件(35.3%)に分類され、「処置」のキーワードは「保健管理」のグループに多く含まれていることがわかった。(表1)。

3) 掲載誌と研究の内訳

抽出された17件の掲載文献は「大学紀要」11件、「月

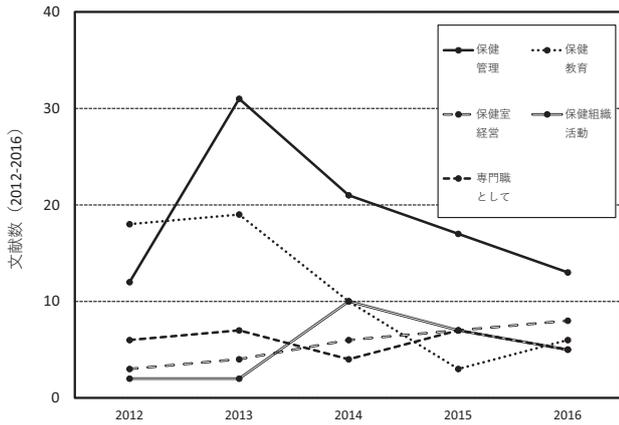


図1 職務内容別年次推移

刊誌」1件、「学会誌」5件で、論文の種類別は原著12件、研究報告3件、解説/特集2件であった。

研究方法および対象は質問紙調査10件、事例研究4件、文献検討2件、面接調査1件であり、養護教諭対象10件、大学生対象4件、文献検討2件、児童・生徒対象1件、であった(表2)。

4) キーワードによるグループ化

上記の条件で抽出された17件の文献についてキーワードによるグループ化を実施すると、「処置」以外に「診断技術」「役割・職務意識」「機関連携」「保健室経営」のキーワードが抽出された。そこで、「処置」を含めた5つのキーワードによる分類を試みた。

「処置」は創傷・応急・救急処置に関するものとした。処置方法として近年は閉鎖療法が普及しているため、筒井らは保健室に閉鎖療法を普及させる方策について検討されていた。また、処置の中でも救急処置に関しては、池島による処置に対する処置の自信、山内らは諸外国との比較や、荻津らの中学校における救急処置、伊藤の保健室準備品中の救急処置で備えるべき物品、河野らの保健室での子どもへの対応場面など救急処置における様々な視点で述べられていた。保健室で行う技術での限界があり、また、この判断する技術の向上が必要である。

「診断技術」はフィジカルアセスメントに関するものとした。大野によると養護教諭が行う学校看護と病院看護・地域看護は異なり、専門職として多様な状況下で正確な判断とスキルを求められる「舌診」を取り入れたフィジカルアセスメントに着目しており、アセスメントに必要な観察も示された。三村は、養護教諭が保健室で対応する疾患を根拠とした養護教諭に必要なフィジカルアセスメントが明らかにされ、「息苦しい」という訴えに対する対応が例示されている。

「役割・職務意識」は養護教諭養成施設での教授方法等に関するものとした。池島らは、養護教諭の役割遂行における満足度と自信度が明らかにされている。「職務に対して満足」が全体の71.6%であるが、看護学系(75.7%)

とその他の学問系(68.2%)の優位差は認められなかった。なお、職務に満足している者は健康相談活動や保健室経営、人間関係に自信があると答えた割合が高く、経験年数が11年以上の者は保健室経営について自信がある割合が高かった。前述の山内らは、オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州の私立学校のスクールナースも、日本の養護教諭も職務内容として救急処置と保健室経営に高い意識を持ち、さらに日本の養護教諭は保健教育健康相談などの学校保健に対しての役割も意識していた。また、塚原らは養護教諭の職務に対するニーズについて文献検討し、ニーズが高い項目として、担任との連携や組織的対応、健康相談・健康相談活動が挙げられ、それらに対応するためには「支援体制づくり」「共通理解」を図りながら「役割分担」して支援することが重要であるとしている。久保は、養護教諭を志望する学生が持つ養護教諭に対するイメージと職務意識の特徴について対象学生に講義の中で情報を提供し、職務意識や養護教諭に対するイメージの変化を明らかにした。芝木や山本らは、幼稚園での養護教諭の職務実態として、複数園兼務している養護教諭が50%であり、そのうち半数が職務困難感を抱いていることから、さらに多くの養護教諭の幼稚園への配置が望まれていると述べている。

「機関連携」は地域等とのコーディネーションに関するものとした。筒井らによると幼稚園へのより多くの養護教諭の配置により、効率的な保健活動の実施、園医や関係機関、他園との連携が可能になるとしている。また、岡田は保健室を拠点として活動する養護教諭は、学校内外の専門家との連携コーディネーターとして、学校において子どものメンタルヘルスに対し重要な役割を担っているとしている。

「保健室経営」は養護教諭の経営的な観点に関するものとした。前述の山内らによると保健室経営はオーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州のスクールナースも日本同様に職務内容のひとつとして高く意識していた。また、今野は、養護実践力の育成には特に実践の要になる保健室経営に関わる能力の育成を必要としている。久野らによると、過去に救急処置以外で保健室に来室した学生への聞き取りから、保健室観として「保健室が落ち着く」「相談する場」「来室しやすい」、養護教諭観として「共感してくれる」「話に耳を傾けてくれる」「安心感がある」を持っていた。蓮池らでも同様に保健室は「心を休めるところ」「相談できるところ」といった児童生徒らの認識が高く、養護教諭は「優しい、明るい、頼れる、話しやすい先生」等と認識され、児童生徒は養護教諭を信頼し保健室を利用しているとしている。

5. 考 察

先行研究について整理した結果、養護教諭が保健室で行う業務についての記述が含まれる文献から、次の5つ

表2 保健室で行う処置に関する文献

番号	表題	代表著者	掲載誌	論文種類 (頁)	掲載年	方法	対象	処置	診断技術	役割・職務意識	機関連携	保健室経営
NO.1	保健室の利用状況と保健室観・養護教諭観の関連：小・中・高校時代の経験に基づいて	久野 真澄	弘前大学教育学部紀要 107	原著 5	2012	質問紙調査	大学生 大学院生					○
NO.2	学校保健室で行う創傷処置に関する研究 閉鎖療法への向けて	筒井 康子	九州女子大学紀要 49 (1)	原著 10	2012	質問紙調査	養護教諭	○				
NO.3	養護教諭の役割遂行における満足度と自信度に関する研究	池島 千恵子	高知学園短期大学紀要 42	原著 14	2012	質問紙調査	養護教諭	○		○		
NO.4	オーストラリア連邦のスクールナースの役割 ニューサウスウェールズ州における調査から	山内 愛	学校保健研 55 (5)	原著 10	2013	質問紙調査	スクールナース	○		○		○
NO.5	事例検討によって形成される養護教諭の力量事例「日常よくある保健室での子どもへの対応」の場合	河野 千枝	学校健康相談研究 10 (1)	研究報告 8	2013	事例検討	養護教諭	○				
NO.6	子どもの求める保健室像、養護教諭像についての調査研究	蒲池 千草	九州女子大学紀要 49 (2)	原著 16	2013	質問紙調査	小・中学生					○
NO.7	幼稚園における保健活動の実態と養護教諭の必要性	筒井 康子	九州女子大学紀要 49 (2)	原著 17	2013	質問紙調査	養護教諭				○	
NO.8	養護教諭の行う舌診を加えたフィジカルアセスメント	大野 泰子	鈴鹿短期大学紀要 34	原著 11	2014	事例研究	大学生		○			
NO.9	養護教諭の職務に対するニーズに関する文献検討	塚原 加寿子	新潟青陵学会誌 7 (1)	原著 9	2014	文献検討	文献			○		
NO.10	【幼稚園保健2014】幼児と健康 幼稚園における保健活動の実態	芝木 美沙子	小児科臨床 67 増刊	解説/特集 6	2014	面接調査	養護教諭			○		
NO.11	日々の救急処置を省察することで得られた養護の視点 (第2報) プロセスレコードによる中学校事例の検討	荻津 真理子	学校救急看護研究 7 (1)	研究報告 10	2014	事例研究	養護教諭	○				
NO.12	養護教諭を志望する学生の養護教諭イメージと職務意識の特徴：講義による変化	久保 昌子	京都女子大学大学院発達教育学部研究科博士後期課程研究紀要 009	原著 14	2015	質問紙調査	大学生			○		
NO.13	A 県における幼稚園での養護教諭の職務	山本 佳奈実	鈴鹿短期大学紀要 35	原著 7	2015	質問紙調査	養護教諭			○		
NO.14	「養護概説」における「保健室経営」の検討：養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの視点から	今野 洋子	人間福祉研究 18	原著 4	2015	事例研究	大学生					
NO.15	保健室備品の適正化に関する検証：養護教諭の救急処置をより効果的に行うために	伊藤 琴恵	名古屋芸芸大学短期大学部研究紀要 13	研究報告 10	2016	質問紙調査	養護教諭	○				
NO.16	養護教諭に必要なフィジカルアセスメント：保健室でみられる原因を根拠とした提案	三村 由香里	岡山大学大学院教育学部研究科研究集録 161	原著 8	2016	質問紙調査	養護教諭			○		
NO.17	【学校と精神医学Ⅰ】保健室から見た子どものメンタルヘルスと養護教諭の役割	岡田 加奈子	精神科治療学 31 (4)	解説/特集 5	2016	文献検討	文献					○

のキーワード：「処置」「診断技術」「役割・職務意識」「機関連携」「保健室経営」を基に情報を抽出した。さらに、保健室で行われる「処置」に着目し、「処置」を支える養護教諭が日々直面する他の業務との関係や、各業務の関係性について考察した。

今回のレビューでは、診断技術に関して、養護教諭が保健室で用いるフィジカルアセスメントや診断について述べられていた。先行研究における診断技術として、三村はフィジカルアセスメントを教育内容に含める必要性を主張しており¹⁸⁾、保健室で主に使用する身体査定技術が必要であることが伺える。また、客観的な情報だけでなく、児童生徒からの主観的情報に対する観察技術も必要となる。養護教諭が用いるフィジカルアセスメントは、児童生徒の訴えから焦点を絞って観察するフォーカスアセスメントが主になっていることから、アセスメントスキルの向上が必要と考える。また、得られた情報を統合し、今、何が考えられるかということ判断する技術も必要である。病院受診が必要か否か判断し、緊急を要する事例か、様子観察でよい事例かを見分けられなければならない。

養護教諭の診断技術は、実務経験から習得し、状況に応じて活用されると考えられる。養護教諭養成課程は、教育学部、看護学部、その他の学部・学科など多岐にわたっており、看護師免許の有無や養護教諭免許状の種別、養護教諭としての経験年数の違いによって技術に差が生じる。そのため、養護教諭養成課程での技術教育や新卒養護教諭に向けた研修が必要である。先行研究における「処置」には筒井、河野が述べているように、救急処置が重要であるとしている⁴⁷⁾。

学校での創傷に対する救急処置の特質は、学校教育機関であるため、医療機関までの応急処置のみが行われる。また、処置と合わせて発達段階に合わせた疾病やけが等に関する児童生徒への保健指導を行う。その範囲は、医療機関へ送り込むまでの救命処置から一時的な危険脱出処置、保護者への連絡、医療機関で受診するまでの処置、不安の軽減処置、搬送等や一般の医療の対象とはならない程度の軽微な傷病の処置であり、多種多様である。このことから、養護教諭はあらゆる傷病に対する診断技術を持ち合わせ、その事例に合わせた処置の技術が必要である。また、養護教諭の役割・職務意識として、保健室来室児童生徒に対応するための知識や理解、技能、判断力、健康課題を捉える能力、健康課題を解決するための指導力、企画・実行力、他者との調整能力が必要である。先行研究では、筒井らは幼稚園に養護教諭を配置し、教諭との協力によって教育活動と保健活動の円滑化につながるとしている。「他校種と同様に幼稚園にも養護教諭が配置されれば、教諭等の不安や負担が軽減され、相互の協力によって園における教育活動と保健活動の両方が、より円滑により効果的に行われるように考える」⁹⁾¹⁴⁾

と述べている。成長発達の著しい幼少期の健康を管理という観点で養護教諭の役割が大きく期待されていることから、今後は小学校、中学校、高等学校などの他校種や地域の保健センターや地域ボランティア、高齢者施設などと連携し、教育機関と地域の架け橋になることも求められる。

蒲池らは「学校と地域との環境にも目を向けて、保健室での児童生徒と保護者との連携、学校と地域との現状に目を向け児童生徒のニーズや地域ニーズに応じた保健室像、養護教諭像を検討していく必要がある」⁸⁾と述べており、各関係機関との連携も必要としている。

筒井らは、養護教諭は園医や関係機関とのパイプとして大きな役割を果たすとしており、幼稚園間、幼稚園と小学校間のネットワーク形成の利点を指摘している。児童生徒の心身の健康問題が多様化しているため、地域レベルでの健康問題の解決を図っていく必要があり、そのため、地域の関係機関等との連携を行うコーディネーション能力も必要となっていると推察する。

養護教諭は学校保健活動の中核的な役割を果たすため、保健室経営の充実を図ることも求められる。年間の保健室経営計画を立案し、教職員に周知を図りつつ協力を得て取り組む必要がある。また、次年度の評価計画を立て、学校の喫緊の問題を解決する必要もある。先行研究における保健室経営として、今野は、養護教諭の教育的背景への理解と、教育活動としての目的意識を持ち、発展的に経営する能力が求められるとしている¹⁶⁾。保健室経営は学校の周辺地域や児童生徒の生活環境を含めて情報収集し、課題を見出して解決に向けて取り組むこと、また、保健室の備品や安全、安楽を踏まえて室内の配置などを考える必要がある。さらに複数の児童生徒が保健室を出入りするため、プライバシー遵守も考慮する必要がある。保健室登校の児童生徒もいるため、保健室と養護教諭には幅広い対応力が求められている。

6. まとめ

本論では保健室で行う「処置」に関する2012～2016年までの過去5年間の文献を収集して分析した。その結果、救急処置、創傷処置、フィジカルアセスメントなどの技術が抽出された。保健室での「処置」のうち、救急処置は養護教諭が苦手とする技術とみなされており、全身状態の観察と高いアセスメント能力が必要とされる。創傷処置は洗浄のみから、止血、縫合が必要なレベルまで幅広いため、それを短時間で観察してアセスメントして判断する能力が必要とされ、様子観察から救急搬送までの判断技術も求められることが明らかとなった。

これらの能力や技術を獲得して実務に活用するためには、基本的な知識と技術はもとより、養護教諭の経験が必要である。さらに、児童生徒が保健室へ訪室してきた際に内科的・外科的なフィジカルアセスメントである全

体アセスメントとフォーカスアセスメントが必要であることが明らかになった。「処置」の必要性、病院受診の必要性を見極める技術が求められる。今後、アセスメントの後に用いる技術の把握が必要であり、これらの技術の項目について保健室でどのような技術が使用されるかを調査して抽出することが求められる。

これからの養護教諭養成では、各教育機関において保健室で養護教諭が使用する技術の項目「診断技術」「処置」をつなぎ合わせて使用し、訪室から退室までの一連の流れで対応できるよう、演習等でシミュレーションを取り入れるなどした教授方法を試みる必要がある。また、養護教諭の「役割・職務意識」やコーディネーション能力、コミュニケーション能力を使用した「機関連携」、学校内でその専門性を生かした「保健室経営」についても強化していくことが求められる。これらの技術を効果的に獲得するためには現職養護教諭の研修等や、養護教諭養成課程での学生育成プログラムへの追加が効果的と考えられる。

利益相反：利益相反基準に該当無し

文 献

- 1) 公益財団法人日本学校保健会：平成23年度調査結果、保健室利用状況に関する調査報告書。2013, pp 25—26.
- 2) 文部科学省：養護教諭の職務内容について学校教育法(抄)第28条。
- 3) 久野真澄, 遠山彩香, 小林央美, 他：保健室の利用状況と保健室観・養護教諭観の関連：小・中・高校時代の経験に基づいて。弘前大学教育学部紀要 107: 95—100, 2012.
- 4) 筒井康子, 中間春香：学校保健室で行う創傷処置に関する研究 閉鎖療法の普及に向けて。九州女子大学紀要 49(1): 91—101, 2012.
- 5) 池島千恵子, 大西昭子, 梶本市子, 他：養護教諭の役割遂行における満足度と自信度に関する研究。高知学園短期大学紀要 42: 27—41, 2012.
- 6) 山内 愛, 松枝睦美, 加納亜紀, 他：オーストラリア連邦のスクールナースの役割 ニューサウスウェールズ州における調査から。学校保健研究 55(5): 425—435, 2013.
- 7) 河野千枝, 渡邊康子, 小松香里, 他：事例検討によって形成される養護教諭の力量 事例「日常よくある保健室での子どもへの対応」の場合。学校健康相談研究 10(1): 57—65, 2013.
- 8) 蒲池千草, 高木香奈：子どもの求める保健室像, 養護教諭像についての調査研究。九州女子大学紀要 9(2): 109—125, 2013.
- 9) 筒井康子, 脇村桂子：幼稚園における保健活動の実態と養護教諭の必要性。九州女子大学紀要 9(2): 55—72, 2013.
- 10) 大野泰子：養護教諭の行う舌診を加えたフィジカルアセスメント。鈴鹿短期大学紀要 34: 57—68, 2014.
- 11) 塚原加寿子, 笠巻純一, 横山知行, 他：養護教諭の職務に対するニーズに関する文献検討。新潟青陵学会誌 7(1): 71—80, 2014.
- 12) 芝木美沙子：幼児と健康 幼稚園における保健活動の実態。小児科臨床 6(増刊): 2014.
- 13) 荻津真理子, 砂村京子, 竹村佳那子, 他：日々の救急処置を省察することで得られた養護の視点(第2報)プロセスレコードによる中学校事例の検討。学校救急看護研究 7(1): 36—46, 2014.
- 14) 久保昌子：養護教諭を志望する学生の養護教諭イメージと職務意識の特徴 講義による変化。京都女子大学大学院発達教育学研究科博士後期課程研究紀要 9: 53—67, 2015.
- 15) 山本佳奈実, 大野泰子：A県における幼稚園での養護教諭の職務。鈴鹿短期大学紀要 35: 107—114, 2015.
- 16) 今野洋子：「養護概説」における「保健室経営」の検討 養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの視点から。人間福祉研究 18: 61—65, 2015.
- 17) 伊藤琴恵：保健室備品の適正化に関する検証 養護教諭の救急処置をより効果的に行うために。名古屋学芸大学短期大学部研究紀要 13: 23—33, 2016.
- 18) 三村由香里, 松枝睦美, 葛西敦子, 他：養護教諭に必要とされるフィジカルアセスメント 保健室でみられる原因を根拠とした提案。岡山大学大学院教育学研究科研究集録 161: 25—33, 2016.
- 19) 岡田加奈子：保健室から見た子どものメンタルヘルスと養護教諭の役割。精神科治療学 31(4): 501—506, 2016.

別刷請求先 〒734-8553 広島県広島市南区霞1-2-3
 広島大学大学院医歯薬保健学研究科地域・学校看護開発学
 岩佐 美香

Reprint request:

Mika Iwasa
 School and Public Health Nursing Institute of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University, 1-2-3, Kasumi, Minami-ku Hiroshima-shi, Hiroshima-ken, 734-8553, Japan

Literature Search on Treatments Provided at School Nurse Offices by School Nurses

Mika Iwasa and Hiromi Kawasaki

School and Public Health Nursing Institute of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University

Objective

In this study, a literature review on “school nurse offices” and “school nurses” was conducted to obtain a detailed understanding of current practices in school nurse offices. In addition, to be able to respond to diverse cases that occur in school nurse offices, a fresh literature search was performed with an additional focus on “treatments”. Based on the findings, “treatments” provided at school nurse offices were categorized to identify required training of current school nurses and to compile basic data for developing training programs for students within the school nurse training curriculum.

Target

The search engines used in this study were “Igakyo Chuo Zasshi (Japana Centra Revuo Medicina)”, a medical literature database that compiles domestically published journal articles in the field of medicine, nursing, and related disciplines, and “CiNii”, a search engine for scientific journals published by the National Institute of Informatics Society, research proceedings published by universities, and other publications. All searches that included original articles, study reports, commentaries, and academic abstracts were included. The covered period was the five years between 2012 and 2016.

Method

The search terms “school nurse offices” and “school nurses” were used in the first stage of the search. Using the article titles, the articles identified by the search were categorized into the following five groups: “health management”, “health education”, “management of the school nurse office”, “activities of the health organization”, and “as a profession”. In the second stage of the search, the search term “treatment” was added, and the articles identified by the search were numbered in order, according to the year of publication. Authors, published journal, type of article, number of pages, year of publication, research method, research subjects, abstract, and the main focus of the research were analyzed.

Results

Five sub-concepts were derived from the articles on roles performed by school nurses in the school nurse offices: “diagnostic skills”, “treatment skills”, “awareness of roles and duties”, “collaboration with institutions”, and “management of the school nurse office”.

Conclusion

First-aid procedures were considered to be the weakest skill of school nurses as they require observation of the overall conditions and advanced assessments skills. As wound dressing is a broad field, quick observation, assessment, and decision-making skills are needed. Furthermore, school nurses are expected to have decision-making skills, ranging from visual inspections to assessing the need for emergency transportation. Experience as a school nurse is needed to acquire these abilities and skills and to put them into practice. Furthermore, it was revealed that both overall and focused assessments are needed when students visit the school nurse offices. These skills may be acquired effectively with training of current school nurses and by supplementing current training programs for students in the school nurse training curriculum.

(JJOMT, 67: 152—158, 2019)

—Key words—

school nurse offices, school nurses, treatments